

四国企業のサマータイム等に関するアンケート調査結果について

この度、四国経済連合会では、四国企業のサマータイム制度の導入に関する意識、ならびに、地球温暖化防止および省エネルギーに関する取り組みの現状について、アンケート調査を実施しました。

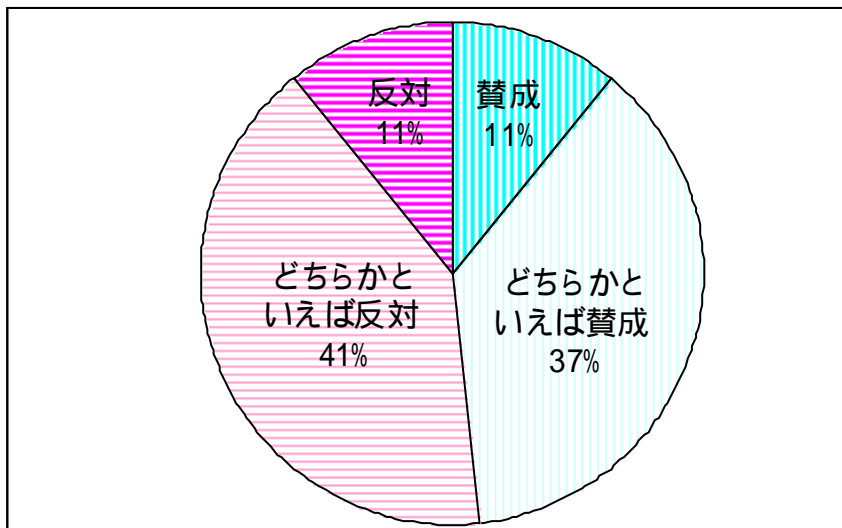
その結果がまとまりましたのでご報告いたします。

〔アンケート実施要領〕

- (1) 調査方法：郵送によるアンケート調査（景気動向調査に併せて実施）
- (2) 調査期間：平成 19 年 8 月 27 日～9 月 7 日
- (3) 調査対象と回答状況：対 象 四経連会員企業を中心に、四国に本社もしくは事業所を有する企業 458 社
回答数 285 社（回答率 62.2%）

1. サマータイム制度の導入についての賛否

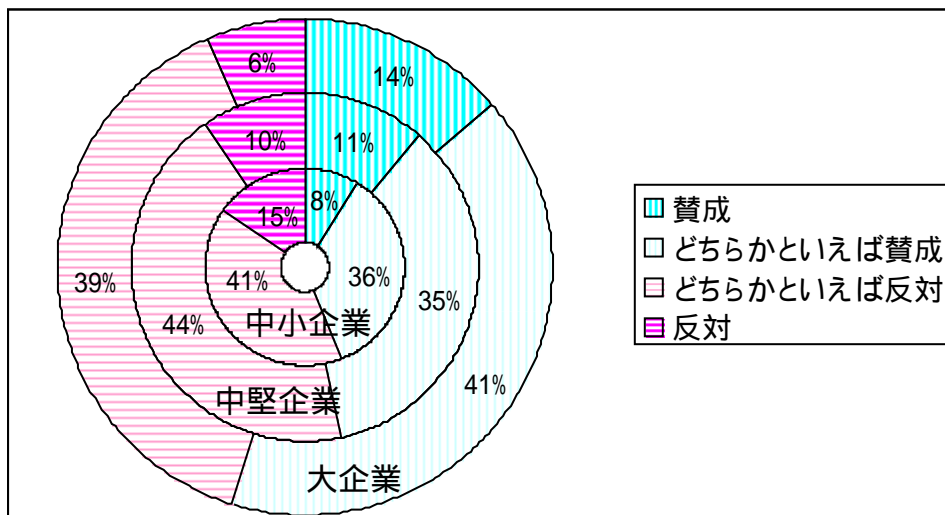
サマータイム制度の導入について、「反対」、「賛成」がともに 11%の同数となり、「どちらかといえば反対」「どちらかといえば賛成」を加えると、反対が 52%となり賛成（48%）を上回ったものの、ほぼ同程度の割合となった。



（注）数字は、回答数（275 社、無回答除く）に対する比率

企業規模別には、サマータイムの導入について「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した企業の割合が、大企業では55%と半数を超えているのに対し、中堅企業では46%、中小企業では44%にとどまる。

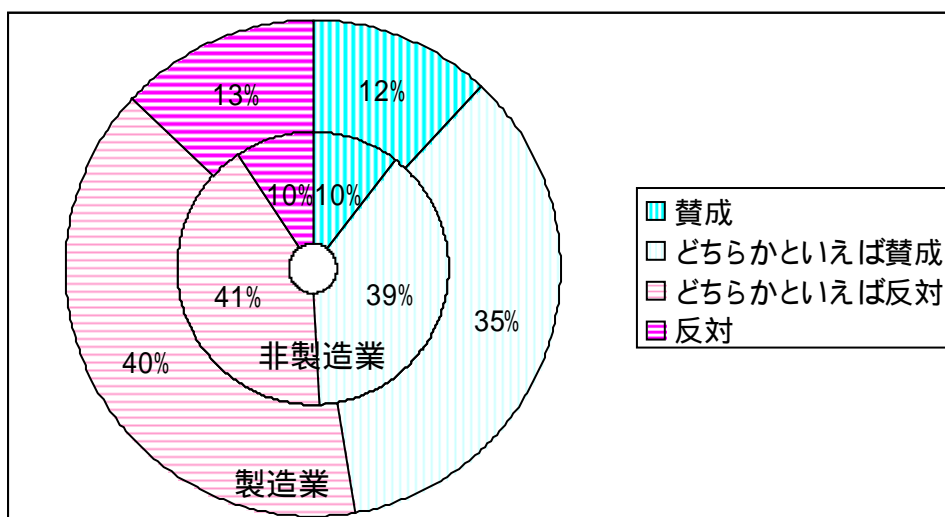
(参考) 企業規模別のサマータイム制度の導入についての賛否



(注) 大企業:資本金 10 億円以上、中堅企業:1 億円以上 10 億円未満、中小企業: 1 億円未満。

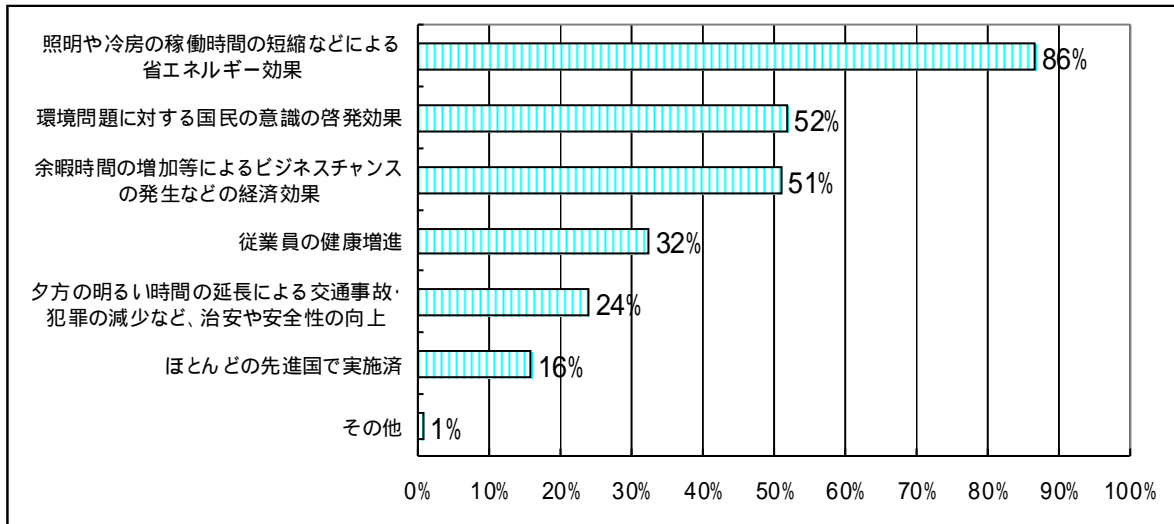
業種別には、サマータイムの導入について「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した企業の割合が、製造業で 47%、非製造業で 49%と、ほぼ同程度である。

(参考) 業種別のサマータイム制度の導入についての賛否



2. サマータイム制度の導入に賛成の理由（複数回答）

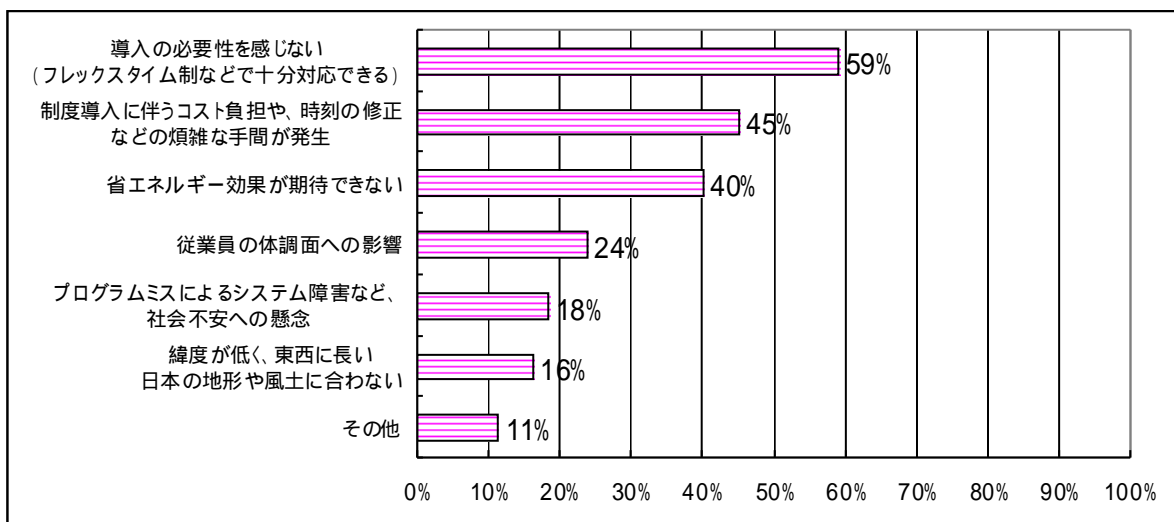
サマータイム制度の導入について、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した企業にその理由を尋ねたところ、86%の企業が「照明や冷房の稼働時間の短縮などによる省エネルギー効果」を挙げた。また、約半数の企業が「環境問題に対する国民の意識の啓発効果」や「余暇時間の増加等によるビジネスチャンスの発生などの経済効果」を期待している。



（注）調査対象：サマータイム制度導入に「賛成」または「どちらかといえば賛成」の企業（133社）

3. サマータイム制度の導入に反対の理由（複数回答）

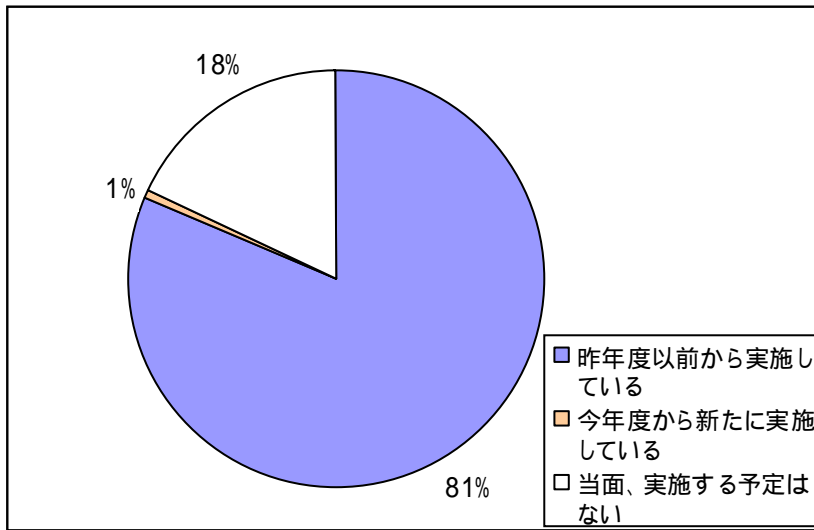
サマータイム制度の導入について、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した企業にその理由を尋ねたところ、「必要性を感じない」（59%）や「制度導入に伴うコスト負担や手間が発生」（45%）、「省エネルギー効果が期待できない」（40%）を挙げる企業が多かった。



（注）調査対象：サマータイム制度導入に「反対」または「どちらかといえば反対」の企業（142社）
その他の11%は、「労働時間（時間外労働）の増加」、「営業時間の問題」など

4. 地球温暖化防止および省エネルギーに関する取り組みの現状

現在、82%の企業が、地球温暖化防止および省エネルギーのための何らかの取り組みを実施している。

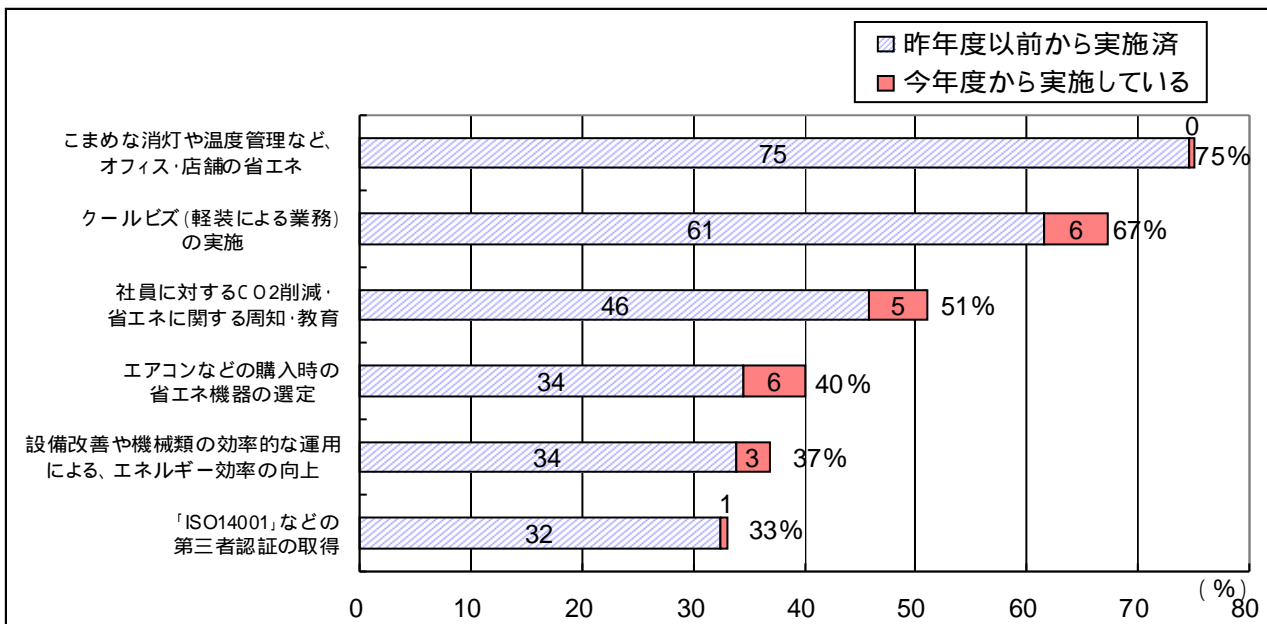


(注) 数字は、回答数 (284 社、無回答除く) に対する比率

5. 地球温暖化防止および省エネルギーのための具体的対策 (複数回答、主要な回答)

現在実施している具体的対策を見ると、「こまめな消灯や温度管理など、オフィス・店舗の省エネ」を実施している企業が 75%と最も多く、次いで、「クールビズ (軽装による業務) の実施」が 67%となっている。

全体の 2 / 3 にあたる企業でクールビズを実施しており、クールビズの定着がうかがえる。また、全体の 1 / 3 の企業で「ISO14001」などの第三者認証を取得していることは注目される。



(注) 数字は、回答数 (284 社、無回答除く) に対する比率